



子どもをやる気にさせる方法



みなさんが子どもの時に、お父さん、お母さんから「遊んでばかりいないで勉強しなさい」と言われて、「今、勉強しようと思っていたのに、先に言われたのでかえってやる気をなくした」というような経験はないでしょうか。

どうしたら子どもは、やる気を出すのでしょうか。

「今度、テストで90点以上を取ったらお小遣いをあげる」「学校に行くようになったらゲーム機を買ってあげる」「次の大会で、良い成績であったら新しいジャージを買ってあげる」などのように「〇〇できたら、〇〇してあげる」というように、報酬を与えることで、子どもにやる気を促すような方法をとっておられる家庭はないでしょうか。子どもをやる気にさせるための方法として、これでいいのでしょうか。

子どもは、一度報酬をもらう経験をすれば、次にはもっと多く（高い金額）の報酬を欲しがるようになるものです。子どもにとって頑張ったことによる報酬は、自分の中で「よく頑張れたなあ」「頑張ってよかった」という、満足感を得ることが一番の報酬ではないでしょうか。満足感を味わうという経験が積み重ねることにより、子どもは人から言われなくても頑張れるようになるのだと思います。

ここで、子どもをやる気にさせるための報酬について考えてみたいと思います。

脳科学者の中野信子さん（テレビによく出演しておられるのでご存じの方も多いのではないでしょうか）は、“やる気を引き出す方法”について「空気を読む脳」という著書の中で、次のように答えています。

・・・人にやる気を起こさせようとするとき、多額の報酬を与えることはほとんど意味のないということがこれでわかります。短期的には馬力を出すための励みになるかもしれませんが、長期的に見ればかえって仕事に対する意欲を失わせる原因になってしまう可能性があります。人をやる気にさせるのに効果的なのは、その仕事自体が「やりがい」があり、素晴らしいものだとして繰り返し伝え続けることと、『思いがけない』『小さな』プレゼントです。予測させる報酬ではなく、気まぐれに与えられること、しかも少額であることが重要です。多額のものでは、せっかく醸成されたその人のやる気が失われてしまいかねません。

もともと仕事の内容が嫌なものであることが明らかな場合には、現実的な額の報酬を与え、その後、「あなたのような人でなければできない仕事です」などの心理的報酬、つまり承認欲求を満たす言葉を上手に使っていくことが効果的です。・・・

「空気を読む脳」中野信子 著 講談社α新書

中野さんは、「やる気を引き出す」方法のキーワードとして、①やりがい ②報酬は少額（現実的な報酬）③心理的報酬の3つを挙げています。

これからは、子どもに対して行動を促す方法として物を買って与えることは止めましょう。「やりがい」を感じることができるようになると子どもは、親が何も言わなくても自ら進んで行動するようになるのです。